



地域とのかかわり  
紹介します!

## 施設・事業所の 地域活動 レポート



No.3 社会福祉法人

# 熊谷福祉会

## 持田大介

経営企画部 サービス推進課 課長

地域貢献活動や交流施設の運営を担う経営企画部サービス推進課は、8人のスタッフで頑張っています。「今日のはなぶさ温泉もとても温まったよ」と声をかけていただくのが私たちにとって何よりの励みとなります。

当法人は1988年7月に設立され、2016年で創立28年を迎えます。持田理事長が両親の在宅介護を終えたことを機にサラリーマン生活から転身し、当初は50床の特別養護老人ホームからスタートしました。その後は老人保健施設、在宅総合ケアセンターをはじめとして、はなぶさ温泉リハビリセンターやはなぶさ温泉デイサービスセンター、そしてケアハウスなど次々と介護施設サービスを整備してきました。

天然温泉足湯処仲町は、2004年に当会敷地内より湧き出した良質な温泉を活用し、地域の高齢者の拠点として楽しんでいただくため、2007年7月にオープンしました。本稿では、当法人が取り組んでいる地域活動を紹介します。

### 施設概要



住所：埼玉県熊谷市玉井1145-1 設立年月日：1988年7月6日

理事長：持田英昭 ホームページアドレス：hanabusaen.com

入所・入居サービス：特別養護老人ホームはなぶさ苑（定員50床、平均介護度4.3）、はなぶさ苑短期入所生活介護（定員6床）、介護老人保健施設はなぶさ（定員：一般棟50床、認知症棟50床（うち短期入所療養介護5床）、平均介護度：一般棟3.4、認知症棟3.6）、ケアハウスはなぶさ苑温泉リハビリ館（定員100床（特定施設入居者生活介護、ケアハウス））

在宅生活支援サービス：居宅介護支援事業所5カ所、通所リハビリテーション1カ所、通所介護4カ所、ショートステイ2カ所、訪問介護1カ所、地域包括支援センター2カ所

併設施設：はなぶさ苑天然温泉足湯処仲町、はなぶさ温泉地域交流センター、はなぶさ苑中央地域交流サロン、はなぶさ保育園（企業内保育所）

#### 基本理念：

- ①自己入所（利用）希望の具現；我々のケアサービス、それは「自分や家族にして欲しい」ものでありたい。
- ②精神的豊かさの追求；我々のケアサービス、それは「居心地の良い」ものでありたい。

立地、環境：当法人は埼玉県熊谷市の西部に位置し、北に利根川、南に荒川が流れる玉井地区の田園地帯にあります。本部のある3万3,000m<sup>2</sup>の敷地には、入所サービス3施設、在宅支援サービス8事業所を擁し、さらに市内中央と東部、荒川地区に合わせて7事業所あります。相談から在宅、入所へと切れ目のない高齢者福祉事業を総合的に展開しています。





## 天然温泉足湯処仲町

天然温泉足湯処仲町は熊谷市内の商店街に位置し、オープン以来すでに8年が経過し、街中の生活にすっかり溶け込み高齢者の交流の場となりました。午前10時の開店から午後5時の閉店まで、馴染みの利用者はほぼ毎日定時に来店され、時には友人や家族を誘って、足湯の利用方法や効能を得々とお話しされます。まさに、人が人を呼ぶ好循環が、徐々に利用者の数が増えていった最大の要因です。

足湯処仲町では、毎日30～40人（年間約1万人）が足湯を利用されており、また、2階には20坪ほどのオープンスタジオがあります。ダンスや民謡、書道など、文化活動の場としても大いに活用されており、一汗かいた後の足湯もまた楽しみの一つのようです。ここには2人のスタッフが常駐しており、うち1人はケアマネジャーの資格のある職員で、相談業務にも対応しています。中には気軽に相談のできる場所として足を運ぶ方もいらっしゃいます。



## はなぶさ温泉地域交流センター

2014年9月には、法人創立25周年を記念して25周年記念棟が建設され、2階に「はなぶさ温泉地域交流センター」もオープンし、足湯処仲町と共に2カ所目の高齢者の交流の場が誕生しました。記念棟のある玉井地区は持田理事長の地元でもあり、「はなぶさ苑」の成長を温かく見守っていただいている近隣の方に感謝の気持ちを形にしたいという熱い思いから、このはなぶさ温泉地域交流センターは誕生しました。

地域交流センターは、約1,200m<sup>2</sup>のフロアーに大小9つの多目的室があり、レッドコードやトレーニングマシンを備えています。また、カラオケも常時行えるよう整備しています。施設の規模や充実ぶりは地域の方々にもいつもお褒めいただき、中でも天然温泉は大好評です。利用される方からは「やっぱり温泉はいいね」との声が聞かれ、つやつや顔で満足そうな様子が見えます。

また最近では、マシーンを使つてのセルフトレーニングをする人も増えてきており、「お陰でエレベーターを使わなくても階段の昇り降りができるようになった」と、誇らしそうに声をかけてくださる方もいらっしゃいます。

地域交流センターのある25周年記念棟の1階にはカフェ茶苑があり、毎日名物マスターの淹れる上質のコーヒーの香りが漂っています。ここは、誰でも自由に利用することができ、デイサービスの利用者や家族、そしてボランティアの方が、とてもなごやかな雰囲気の中でコーヒータイムを楽しんでおり、地域の方々の憩いの場として活用されています。



## ほうぼらじゅうエクササイズ

「ほうぼらじゅう」とは、熊谷地区の方言で「あちらこちら」という意味で、体中のあちらこちらを動かして、いつまでも健康に過ごしていただきたいという願いを込めてネーミングしました。2006年8月からスタートした熊谷市が推進するまちおこし事業「あついぞ！熊谷」へ参加し、地域に健康体操を広げようという目的から、この介護予防のための運動の集いは始められました。

当初は月1回、8～11月の期間限定で開催していましたが、現在は第3日曜日と第2、4水曜日の月3回、25周年記念棟内にある地域交流センターで開催しています。第3日曜日は100人、第2、4水曜日は各35人が出席し、毎回体験入会希望の方も出席するなど、会場はいつもにぎやかな雰囲気に包まれています。また、第3日曜日は管理栄養士による彩りのよい栄養バランスに優れた昼食を提供しており、参加者からも大好評で毎回お褒めの言葉をいただいています。

そして、年に1、2度はハイキングやウォーキング大会など屋外活動も実施し、笑顔あふれる交流の場となっています。





## 家族介護者教室

日々の介護で苦勞の多い家族を対象に、月に1回最終週の土曜日に地域交流センターで開催し、毎月30人程度が出席します。各月のテーマと実施部門は、年度ごとに計画して進めています。内容は、家族介護者の負担軽減となる介護技術や家庭でできる脳トレなど、法人各施設の持ち味を発揮したものとなっており、毎回出席者から熱心な質疑をいただいています。

また、本題の前に持田理事長自ら、その時々最新の情報や今後のサービス運営などをテーマに講話を行っています。今月はどんな話題が出てくるのか、出席者の期待の一つにもなっています。



## はなぶさ温泉地域交流センター祭

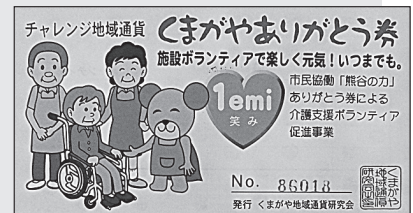
地域の高齢者やはなぶさ苑のサービス利用者、地域のセンター利用者との交流の場となるように始められたもので、2016年1月の開催で2回目を迎えました。当日はセンターを無料開放して、文化サークル活動の発表や、踊りやスポーツサークルの体験を楽しんでいただき、お互いの交流を深めていただきました。



## 地域通貨の活用

熊谷市には、市民参加によるまちおこし事業を推進することを目的とした、くまがや地域通貨研究会が発行する「くまがやありがとう券」があります。これは、この地域のみで通用する地域通貨の取り組みで、具体的には、市民活動などに参加していただいた人に感謝の気持ちを表すために、この「くまがやありがとう券」を渡し、受け取った人はこの取り組みに参加している店舗などのサービスが受けられるというものです。はなぶさ苑もこの取り組みに賛同し、ボランティア活動への参加のお礼として活用しています。

地域交流センターにおいても、ボランティアへのお礼にこの「くまがやありがとう券」を進呈しています。例えば、この券を持参した方には、地域交流センターの入館料やカフェ茶苑の飲み物代から100円割引し、ボランティアに参加されている方々にも喜ばれています。



使用記録 ※1行でも記入されれば利用可能です。

使用年月日	用途	譲渡先
	高齢者施設	ボランティア

① 協力店で使用の場合、店員等に渡してください。(券はお返しのものではありません)  
 ※ 協力店は、受け取った券の2行目に捺印し年月日、サービス内容、店名を記入ください。  
 ② 協力店がサービス内容は変更の場合があります。必ずお店のルールに準じてください。  
 ③ 利用方法などの詳細は、くまがや地域通貨研究会のホームページをご覧ください。

## 地域貢献活動における 担当者の役割

地域への貢献活動はサービス推進課が行っており、現在3人のスタッフが任に当たっています。具体的な活動は、近隣地域や熊谷市が中心となって行われるイベントなどへの介護相談窓口などの出店、ボランティアサークルや公民館などの主催で実施される学習活動へ講師として参加するなど、地域に出向きさまざまなサービスを担当しています。

市内で行われる各お祭りでは、自慢のはなぶさ温泉による出張足湯や、休憩所を設置してお茶のサービスなどを行い、介護の相談を通して高齢の参加者から「あー、ほっとした。これでまた歩けるよ、ありがとう」と感謝の言葉をいただいています。スタッフにとっても、やりがいを感じるひとときとなります。

## 地域貢献活動による利用者の声

熊谷市は現在の社会情勢を反映し、高齢者夫婦のみの世帯や独居世帯が年々増加の一途をた

どっています。その対策は、地域内においても切実な課題です。熊谷市民と共に歩む当法人が、地域貢献の一環として交流施設の設置を実行したことにより、「行く場所があって、おしゃべり相手がいて、温泉やカラオケを共に楽しむことができるので、もっともっと大勢の人に知ってもらいたい」といった意見が出ています。

## 現状の課題

はなぶさ温泉地域交流センターについてはまだまだPR不足であり、地元でも認知度が十分とは言えない状況です。また、利用したくても行く手段がないという方も多く、特に送迎手段の確保については苦慮しているところです。

2016年6月に新たに中央デイサービスセンター付属の交流サロンができ上がり、3カ所の交流施設がそろいました。これらの施設が市民の皆様によりいっそう利用していただけるように、現在各施設における介護予防運動の実施や交流、施設巡りツアーなどを企画・運営し、地域高齢者の負託に応えていきたいと思っています。

## 《新企画》他の「泊り」機能との差別化と工夫！

# ショートステイ稼働率管理と 新規利用者・リピーター 獲得の実践的戦略

博士(社会福祉学) 社会福祉法人 豊洲会 支部 滋賀県 済生会  
特別養護老人ホーム 淡海荘 係長  
口村 淳氏 生活相談員 / 社会福祉士 / 介護支援専門員

東京

16年 8/28 (日)  
日総研 研修室(廣瀬お茶の水ビル)

名古屋

16年 9/25 (日)  
日総研ビル

参加料/税込 本誌購読者 15,500円 一般 18,500円 [時間] 10:00~16:00

### プログラム

1. ショートステイにおける稼働率管理の具体的方法  
●稼働率の計算方法と利用定員の考え方 ほか
2. ショートステイの  
新規利用者・リピーター獲得に向けた戦略  
●利用理由とパターンの把握 ほか
3. こんな時どうする？  
稼働率に影響を及ぼす課題と解決法  
●入退所が多い時の職員の対応 ほか
4. ショートステイの円滑な稼働率管理と  
利用者獲得の両立を目指して  
●ショートステイに求められる機能と使命 ほか

検索

日総研 14285

